

■ 会議概要

第6回鶴岡市歴史的風致維持向上計画推進協議会

◆日 時 平成30年3月12日(月)午前9時30分～

◆会 場 鶴岡市総合保健福祉センターにこふる大会議室

◆出席者

佐藤滋委員(会長)、高谷時彦委員、野堀嘉裕委員、渡部幸委員、阿部博行委員、酒井忠久委員、粕谷典史委員、山田鉄哉委員、渡会悟委員、石塚健委員、國井儀昭委員、稲泉眞彦委員、秋野公子委員、勝木正人委員、

◆欠席者

浦山仁委員、大場秀樹委員、阿部良一委員

◆公開・非公開 公開

◆傍聴人の人数 0人

◆次 第

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 委員紹介
4. 報告
 - (1) 平成29年度の事業報告について
5. 協議
 - (1) 平成30年度事業計画について
 - (2) 歴史的風致維持向上計画の一部変更について
 - (3) 平成31年度以降の歴史的風致維持向上計画の推進について
6. その他
7. 閉 会

◆ 質疑

委員

交通のアクセスが課題だと思っている。交通の拡充をお願いしたい。

また、鶴岡は空き家がいっぱいあるので、それらをうまく使って休憩施設などをつくる方法はないかと思っている。鶴岡周辺でゆっくりお茶を飲んで休める場所がないので、なんとかうまい計画はないかと思っている。

会長

鶴岡の場合、3重点地区が点在していて、広域にいろんな歴史資源が広がっているので、それをどう結びつけるのか、交通の問題が一番大きいと思う。交通に関してはカーシェアやオンデマンドといった新しい動きが出てきているが、日本は世界と比べて固い。世界的にはスマホや携帯電話を使ってすぐに来て、というシステムがある。柔軟にお考えいただきたい。

委員

われわれの研究室ではサインや観光の考え方のようなものを考えている。標識の表示がバラバラであって、例えば空港から加茂水族館に行こうとするときに、「加茂水族館＝市内」と思っている人は逆のほうに行ってしまう。単純だがそういったところを改良していけば良くなるということもあると思う。

カーナビについて、「松ヶ岡」と検索すると駐車場には案内してくれなくて、本陣の前で案内を終了されてしまう。

また、Wi-Fi がなくて非常に不便だという指摘がある。日本のような発達した国でなぜないのかと言われてしまう。そういった積み重ねていけることは大事なのかなと思う。

観光において、受け手側が観光客を受け入れることを楽しめるようにできたらと思う。地域の人々が観光をきっかけにして案内を楽しんだり、地域のよさを発見したり、そういうことを組み合わせて、観光産業ではなく地域がどう楽しむかという視点も大事なのかなと思う。

委員

自家用車で鶴岡市まで来る人が 7 割以上いる。ランチをどこで食べているかわからないということだったが、コンビニで買って車の中で食べているのではないかなと思う。若い人はそのような傾向になっていると思った。コンビニには Wi-Fi がある店舗もあり、そこで情報を入手している可能性もあるのかなと思う。

委員

日本人と外国人が尋ねることが全く違う。日本人はまずバス乗り場を聞いてくる。景観を見てゆっくり楽しむという感覚ではなくて、目的をクリアしていく感じ。外国人はまず食事する場所はどこかと尋ねてくる。バスの時間などは気にしていなくて、タイミングが合う時に乗れば大丈夫ですと言う。山岳信仰の場所であり、人混みは行かなくてよくて、同じところに立ち止まってじっくりと見ている。また、月山にはリュックを背負って歩いて行くのだと言うし、博物館のベンチで寝るところはないかなと言う。

要は感覚が全く違うので、求めているものも違うのだと思う。私たちが出羽三山において提供できることは何かということで、日本人と外国人の感覚の違いを見直して対応していく必要があるのではないかと最近特に思っている。

委員

鶴岡は城下町と言われているが、城下町らしいものが非常に少なくなっている。御隠殿や致道館というものはあるわけだが、武家屋敷というものが無い。道路も昔は鉤型の道路だったが、利便性を考えて真っ直ぐに引かれた。鶴岡北高校の北側にある武家屋敷には人が住んでいないと思うし、劣化が激しく武家屋敷としては維持できないのではないかなと思う。鶴岡も城下町だとわかるものが必要だと思う。武家屋敷としてしっかりと残っているものは、菅実秀の家くらいだろう。菅家は子孫が居り庭園を一般公開しているが、いつまでも続くかは

わからず、鶴岡市が庭園や建物を一括して買い上げるなどといった方法をとっていきべきなのではないかと思っている。西郷関係の書も一括して引き継ぐなど、武家屋敷などの城下町の名残を残していくことを今から考えていくべきだと思う。

会長

武家屋敷はそれぞれの城下町のキャラクターが出ている。武家屋敷は暮らし方が違うのでいろんなところに行ってみるとおもしろい。

委員

宿坊というものは県外の人を相手にしている。市内の人は入ったことがないし、わからない。中がこうなっていてこういう料理を食べるということを紹介すれば興味ある人はいっぱい来るし、イベントをやればいっぱい来る。宿坊は地元の人を対象にしておらず、県外の檀家が一番の関係者であるので、宿坊でイベントをするとなるとほとんど鶴岡の人がいらっしゃる。市内の人向けに、護摩祈祷して精進料理を食べて宿坊の人の話を聞くというイベントはこれから必要だと思う。

宿坊は疲弊してきていて、外から客を呼べる状態ではなくなってくるのは目に見えている。宿坊は現在 29 軒あるが、これからも減っていくだろうというのは自明の理であり、宿坊組合を維持していくのは大変である。そのため、護摩祈祷して精進料理を食べてというようなイベントをやっていく中で認知されていく、人が来るという流れに持っていくしかないと思う。急に外国人が来て食べさせてくれということにはならないだろうし、これからも長く宿坊を育てていくしかないと思う。

委員

蚕は「汚い、臭い」というイメージがあって、脚光を浴びるものではなかった。富岡製糸場は世界遺産に登録されて注目されるようになった。同じ業界同士の研究や褒め合いをしたらと思う。現在松ヶ岡には富岡のポスターなどを置くようにしてお互いに行ってくるようにおすすめしている。実際に毎年群馬から人が来ている。富岡に行った時に、何年かごとにサミットを開催して東京の新聞に載るようにしたらいいのではないかと発言したことがある。広域的にサミットなどをできたらいいと思う。

町名について、「本町のどこどこ」と言われてもわからない。昔の呼び方で「一日市の鶴岡ホテル」とか言ったほうが楽しいと思う。旧町名が復活するような施策があると面白い。

委員

建物を買い取りするというような話があったが、書物について、鶴岡の文人の書をごく当たり前に持っている人は鶴岡にたくさんいる。しかし、水害や火災を心配する声もあり、市が買い取り、できなければ委託などで保存していく施設を積極的に作って資源として活用していくといい。

藩校致道館と荘銀タクトの間の柵について、鉄柵を撤去し生垣を整備したが、私は非常に

よかったと思う。市役所前の通りの多くの建物は、時代は違っても素晴らしいものであるが、ひとつひとつ見てはだめで、それをつなげてどう活用していくか、手向も松ヶ岡も同様につなげていくという考え方でやっていったらどうかと思う。荘銀タクトでの良い企画とつなげて、藩校致道館など一連のものとして構想していくともっといいものが出てくる。

地名や名称、場所などについて、解説を入れて市民に知らせる取り組みを続けていくことが、市民全体がこの町に対する知識を得て、結果として保存活用が長く続いていくのではないかと思う。

委員

旅行者や来訪者にピンポイントで複数の観光スポットのみまわっていただくのではなく一つの観光ポイントに少し留まって、その地域やまわりも観光してもらえるような旅行プランがあるといい。

観光地の周り方、観光地との交通手段、食事の場所などのコースの一例を出したら面白いと思う。観光客が一例から次の新コースを見つけたりすることも考えられる。例えば国外でも、苦勞しても公共交通機関を調べて使って移動したりすると、その国の人になったような気分になれる、そこに住んでいる人の気分になれる、また来たいという気持ちに繋がると思う。鶴岡においても公共交通機関を使い周れるコースの一例が出ていったらいいと思う。

会長

観光のコースが書いてあるものがあったとしても目立っていない。検索した時にはじめに見られると、その通りに回らないにしてもこんなところがあるんだというような発見があって参考になるのでよい。

委員

昨年の5月6日に交通量調査をした。すると随神門から門前町に行く人は0人だった。随神門から五重塔に行く人は約2,000人であり、門前町の魅力あるまちづくり、景観づくりをしなければいけないと思った。今年度、修景整備の補助金を受けながら直して、少しは良くなったと思う。

要望として、手向地区内に3ヶ所ある公衆トイレを直してもらいたい。社務所の下にあるトイレは半地下に入る形であり、観光地にふさわしいのかなというトイレである。身体障害者は使えないトイレであり、早期に改修していただきたい。他には黄金堂のそば、蝦夷館公園の中にあるが、トイレの印象は観光客やリピーターには響くことなので変えていかないとと思う。

また、ベンチなどの休憩施設、どこに停まれるかの表示や駐車場が必要だと思っているので31年度以降の計画に取り入れていただきたい。

会長

皆さんから出していただいた意見に応答など、行政の方に聞きたいことなどありましたら

何か。

委員

案内サインについて、鶴岡市街地は表示がいっぱいあるが、手向地区は比較的にない。是非優先して設置していただきたい。

会長

サイン計画というのは鶴岡市内全体の統一的なサインということではないか。

事務局

サイン計画というのは公共サイン計画というものが主体となっていて、鶴岡市全域の交通誘導の案内、各施設までのご案内、施設内のご案内、施設のご案内という風に考えていて、まずはここが観光地だよというのを色で統一しながらやりたいということがある。各地区に入ってからそれぞれの地区の個性があるので、地区ごとに考えてみましょうというもの。全市的には、車でお出でになった方には観光地はこの色の看板を見ればわかるようになるよう進めている。今はこの考え方をいろんな方からご理解いただくことを先にしている。やらないという話ではなくて、やりながら良いものをつくりたいということである。

委員

車で通過するということになると経済効果は限られてくる。半日や何時間といった感じで歩いて周るという発想でサインやパンフレットを作らないと、個々の建物の解説をいくらしてもだめだと思う。

鶴岡駅から観光地図を持って歩いている人が結構多い。最近は若い人や大学生が多い。そのような人が楽しめるものを作ると良い。

鶴岡は城下町ということがあって道路が真っ直ぐ十字についていない。したがって慣れない人には非常に歩きにくい、わかりにくい場所であって、そのようなところに適切にサインがあればということで、計画の主体は歩いて楽しいということを重要視したらいいのではないかと思う。

委員

来る人は、「芭蕉が歩いた道を歩きたい」などの目的があって来るが、案内する私たちは自分の地域しかわからない。ミイラが見たいと訪ねてくる人がいるが、朝日の現地まで案内するための地図がなく案内に時間がかかる。そのため、テーマごとに例えば「山岳」ならここに尋ねればわかるというようなものが一覧になっているものや地図があるといいと思う。

会長

城下町をあらためてまわっているが、各地でいただく資料でとても充実したものもある。そこにあるものだけでなく周辺についても書いてあるのもとても参考になる。

周遊バスについてはどのように考えているか。

事務局

周遊バスは現在 4 コースある。ルート化は観光客というよりは市内の利用者を想定していて、病院を回るルートなどの移動時間がかかる場所があって観光客の方はなかなか利用しづらいところがあり、観光客の利用が少ない状況なのかなと思う。

事務局

観光客向けには JR の旅行商品「駅から観タクン」というものがあり、みどりの窓口で切符を買って駅前に停まっているタクシーに乗って観光コースを周るチャーター型のものである。観光連盟では、「ぐるっとバス」が、中心街を周るコースと加茂水族館まで周るコースの 2 つあり、定額で 1 日あるいは 2 日乗れる。いずれにしてもどこをどう使うとどう組み合わせるといことが分からないと先ほど委員が指摘されたようなことになるので、関係課とよく話していかないといけないと思う。

会長

他にルートを考えようということはないのか。

事務局

以前は松ヶ岡を経由するルートがあったが、搭乗者数が少なくやめたということもあり、あらためて路線バスなどの公共交通機関に乗られる方がどのように周るのがよいのか検討したいと思う。路線バスは市内で 37 路線あるが、大きな黒字なのは鶴岡駅から羽黒ルートと庄内空港までであり、その他は厳しい状況にあるので、そのあたりを検討したい。

委員

代替わりすると古い本や掛軸が出てくるが、どんどんなくなってしまっている。そういったものを鶴岡市がもらうなりしたらどうか。古いものが無くなれば歴史的風致を理解する思想がなくなる。一日市の鶴岡ホテルもオープンセットだという理解をされてしまいかねない。どのような建物かを理解する人を育てていかないといけない。

委員

郷土資料館に書や絵画を持ってきて鑑定をお願いしたいという人がよく来るが、これには資料館に寄贈したいという面もある。例えば、書や絵画などを資料館に持ってきてくださいというルールにするのもありなのかなと思う。

鶴岡市の広報はかつては月に 2 回だったが今は 1 回になり、載っていることが非常に少なくなったように感じる。増ページでもいいので情報を発信していくことが大事だと思う。

以上